

昭和大学附属烏山病院だより

あおぞら

〔発行責任者〕病院長 岩波 明
〔編集責任者〕広報委員長 常岡 俊昭
〔住所〕〒157-8577 東京都世田谷区北烏山6-11-11
〔電話〕03-3300-5231(代表)

第175号

[2022年3月31日発]

定年退職者のご挨拶

I. 「定年退職～烏山病院で過ごした9年間～」 沢田 祐子

いつも未来の10年先を考えると長くて辛い感じがしますが、過去の10年を振り返ると短く感じるものですが、皆様はいかがでしょう。

私は昭和大学病院で内科病棟、横浜市北部病院で緩和ケア病棟、総合内科病棟を経験の後、烏山病院に参りまして9年が経ちました。過ぎてしまえば早いものです。

精神科勤務経験のないことで不安な私を病院の皆様は快く受け入れ教えて頂き B4、A3、B3、C3 病棟で勤務させていただきました。患者さま、ご家族さまと接しながら疾患と看護、人生について多くの方、一人一人から学ばせて頂きました。

人は弱くて壊れやすい、その人の人生に触れる中で精神的なケアの重要性を理解しました。それは私の人生にとって価値があり、一生向き合っていくものだと思えました。

教えてくださった烏山病院で出会えた方々に深く感謝し、これからの人生を生きる力としていきます。大変お世話になり、心からありがとうございました。益々の烏山病院の繁栄と働く皆さまや患者さまの健康と安寧を願っております。



Ⅱ. 臨床検査室 恩地 由美

私が烏山病院に異動となりましたのは、臨床薬理薬理研究所設立時となりますので、ちょうど10年お世話になったこととなります。検査技師としても折り返し地点も過ぎた頃での新しい挑戦でした。精神科という未知の病院での検査、古い体制のままの検査室の改革、大学で少々携わっていたとはいえ、治験センターの立ち上げ、検査技師がどこまでお役に立てるのか不安でもありました。しっかり役目を果たせたのか、後任技師達が頑張れる環境を作ってあげられたのか、私には分かりません。しかしながら、多くの方々に支えられ私自身を成長させて頂けた幸せな時間であったことは間違いありません。

昨年、新型コロナウイルスの感染により、「検査技師」という職業にもスポットライトが当たり、たくさんの人に陰で頑張っているこんな職業があると知ってもらう機会となりました。残念ながら当院でも大変な状況になってしまいましたが、そんな状況の中、烏山病院検査室のみんなが頑張ってくれました。どんな時もしっかり頑張ってくれるそんな検査室を頼もしく思っています。これからも検査室をよろしく願いいたします。

お世話になりました烏山病院そして皆様の今後のご活躍を祈念しております。



Ⅲ. リハビリテーション室 作業療法士 宮下裕之

20年間務めさせていただいた烏山病院を、この春退職致しました。子供の進学のタイミングに合わせ、実家がある長野市に転居しました。最後の3年間はC3病棟での臨床に全力を傾け、自分としてはできることは全て行った気持ちで新天地に赴きます。

私が烏山病院に入職した頃は、まだ中庭や畑がありました。プログラムで患者さんと一緒に育てた大根が豊作すぎて、収穫後こっそり土に埋めてしまいました。職員食堂は中庭の奥にあり、格安の昼食を求め、足繁く通った思い出があります。その後入院棟が建ち、病院機能は変化し、それに合わせて作業療法も変化していきました。私が担当したプログラムとしては、音楽療法では即興演奏を行ったり、毎週ボランティア演奏者を招きコンサートを開いたりしました。ヨガのプログラムではアロマや足浴を行い、新規の患者さんがなかなか入れず「空き待ち」が生じることもありました。

現在、作業療法室は「臨床、研究、教育」がトータルに行える体制が構築されてきています。今後とも作業療法を宜しく願いします。関わってくださった全ての患者さん、スタッフの方々に心からお礼を申し上げます。ありがとうございました。



令和3年度 東京都精神科医療地域連携事業 症例検討会

総合サポートセンター 近藤 周康

去る3月10日に、当院主催で東京都精神科医療地域連携事業における症例検討会をWEBによる方式で開催いたしました。

まず東京都精神科医療地域連携事業とは、精神疾患の日常診療における関係機関の連携を推進するため東京都が圏域ごとに委託をしている事業で、当院では平成26年度より事業の委託を受けて行っていました。

当院の圏域は、23区西南部医療圏（世田谷区・目黒区・渋谷区）で、精神疾患を持った方が、必要なときに適切な精神科での医療が受けられるよう、精神科医療に関する地域連携体制の整備を図ることが目的で、圏域の住民が精神科医療にかかれるよう、精神疾患に関して広く普及啓発を促す「公開講座」、地域の精神科医療機関の場所や診療の内容などを検索して受診の参考にしていただくため「こころの医療機関マップ」をツールとして作成し公開しています。（<https://seinan-kokoro.jp/>）

今回は事業における会議において、医療機関同士で理解を深めることを目的に症例検討会を行うこととし、司会に石束クリニック石束嘉和院長をお招きし、当院の医師常岡俊昭講師により「地域連携と依存症」をテーマに講演いただきました。参加医療機関は6施設。その他世田谷区や目黒区の保健所、渋谷区医師会にも参加していただきました。

精神科医療でも「依存症」の疾患をもつ方へのアプローチで悩んでいる医療機関は多く、常岡講師からは、一般的な医療機関での依存症のイメージ、当院における治療方法、依存症治療の歴史的な変遷から、依存症治療のコツをわかりやすく症例を通じて説明していただきました。参加された医療機関からは介入方法についての質問があり、依存症治療における関心の高さが伺われました。

連携と一言で言えば簡単ですが、有機的な協力関係を築き上げるには時間がかかり、圏域内の医療機関が互いに関心を持っていただく工夫も必要です。今後も必要なときに必要な精神科医療に地域住民がかかれるよう、事業を通じて体制の構築を目指し貢献できればと考えています。

デイケア活動

R. S さん

私は、毎週月曜 13:30 から 14:50 に認知行動療法のプログラムを受けています。最近、認知再構成法について教わっています。認知再構成法とは、自分をつらくさせる認知を合理的な認知に置き換えて、感情や行動や身体反応を変えていくストレス対応法です。私が受けたプログラムでは、「電車の遅延で待ち合わせに遅れそうなとき」や「周囲から注意を受けたとき」や「将来について不安になったとき」の場면을例にして、認知再構成法を行いました。私には、「将来について不安になったとき」について扱った回が特に役に立ちました。すぐにでも自立しないと困ると思うのではなく、年齢不問の求人はいくらでもあるため、今はとりあえずデイケアに通えていれば十分だと思えるようになったのです。



総合サポートセンター

～受診・入院のご相談～

受付：月曜日～金曜日・8時30分～17時

土曜日 8時30分～13時

電話：月曜日～金曜日 03-3300-5329

土曜日 03-3300-5231

◎初診受付：月曜日～土曜日・8時30分～11時

◎休診日：日曜日・本学創立記念日・年末年始

《2月》 入院(前月) 外来(前月)

◆延患者数 6,988(8,505) 4,953(5,160)

◇一日平均患者数 249.6(274.4) 225.1(224.3)

◆診療実日数 28(31) 22(23)

【編集後記】

3月で年度が終わり、今までお世話になった人、環境から離れ新たなチャレンジを始める人も多いかもしれません。自分は変わらなくても周囲が変わる人も多いかもしれません。変化の先には良い事も悪いこともあるでしょう。でもどうせなら、良いことが起こると信じてワクワクしながら毎日を過ごせたらと思っています。

2022年度は皆さんにとっても僕たちにとってももっとワクワクする一年でありますように！

(広報委員 常岡)

広報委員会では、皆様のご意見ご感想をお待ちしております。連絡先は k-kouhou@ofc.showa-u.ac.jp となります。

